

文化財石垣保存技術協議会会報

令和2年（2020） 第24号 —令和2年度事業報告—

令和2年度総会の開催について

令和2年度は新型コロナウイルスの影響により総会の招集は行わず、議案への賛否を記入した議決・承認書の提出をもって総会にかえる書面開催と致しました。

基準日 令和2年7月25日（土）

主な議事（1）役員改選

（2）令和元年度事業報告、決算報告

（3）令和2年度事業計画、予算案



乗岡講師

技能者養成研修・実地研修

日時 令和2年10月24日（土）・25日（日）

場所 日本城郭研究センター（兵庫県姫路市）

受講生 技能会員11名、技術・研究会員10名、一般会員1名、（講師10名、事務局1名）

研修内容

日	講習内容	講師
10/24 (土)	『石垣整備のてびき』の読み方	楠 寛輝 (松山市教育委員会)
	文化財保護制度と石垣修理の理念	中井 将胤 (文化庁文化資源活用課文化財調査官)
	「歴史の証拠」としての石垣	北野 博司 (東北芸術工科大学教授・評議員)
	石垣の成立と展開 —織豊期以前の石積み・石垣—	乗岡 実 (丸亀市教育委員会)
10/25 (日)	「安定した構造物」としての石垣	西形 達明 (関西地盤環境センター顧問・評議員)
	石垣修理における「調査」の実務	坂井 清春 (唐津市教育委員会)
	石垣修理における「設計監理」の実務	白石 建 (技術・研究会員)
	石垣修理における「施工」の実務	北園 和憲 (技能会員)
	総括（研修内容まとめ）	



研修の様子

受講者の声

寺西 俊雄(技能会員)

今回の技能者養成研修〔講義研修〕は、文化財石垣の修復にあたっての基礎知識を全体的に学ぶことができ、入会から日の浅く、実際の現場経験に乏しい私自身には最適な研修内容でした。

歴史的な部分の講義、文化財石垣の修復に対しての考え方、決まり、各専門分野の先生の識見など、とてもわかりやすかったです。

文石協においては、専門のベテラン会員がよりレベルの高い学びを行っていく活動が柱の一つかと思いますが、未経験の技能者などへの、これからの入口になる活動も文化財石垣の保存・修復にとって、裾野の広さも大切に思っています。

今回の内容のような講義研修は、新規入会者の必須研修になればと思います。

今回も学ぶ機会をいただき、ありがとうございました。

山上 雅弘(技術・研究会員)

石垣修理の実際の手順に沿ったカリキュラムだったので、この種の事業未経験の私としては、2日間の研修に参加したかったが、24日のみの参加となったことが残念である。

カリキュラムによると初日は石垣の基本的な考え方、歴史、修理の現状、仕事の進め方など基礎事項の確認的な内容だったようなので、確認の意味で聞いておきたかった。

2日目は西形先生の工学的に見た石垣の位置づけについてから始まった。石垣について体系的な話が聞けたが、日頃なんとなく聞いていた話を、改めて体系的に確認できたとは有意義であった。さらに工学的な研究では、石垣の強度などにまだ未解明な点が多くあるという話も参考になった。

最後に石垣技術者の技術の価値について言及されたが、これは日本社会全体としても技術・技術者の価値を見直すという価値観とも関連しており共感できた。

坂井先生は、これまで携わってこられた唐津城の修理について、試行錯誤に基づく多くのノウハウを紹介していただいた。参考にすべき点が多い話であった。

白石先生の「設計監理」、北園先生の「実務」の話は、高松城を中心とした実際の修理工事の講義であった。私個人としては、2つの講義の内容は石垣構造そのものを知る上で参考になった。また高松城天守台が砂上にあったという事実も興味深かった。

1日のみの参加となったが、全体を通じて石垣修理の基礎的研修な内容だったので私個人としては有益であった。また文化財としての石垣の価値と石垣修理の間には、強度や安全性の問題で相反する関係が生じるという点について、各先生から考えるヒントをいただけた点も今後参考にしていきたい。

王 軍(技術・研究会員)

今回の研修は、二日間の短い時間にも関わらず、文化財石垣保存について、原理から実務まで教えて頂き、大変勉強になったと感じる。授業の内容は、石垣の歴史価値、構造、管理及び修復の実務と保護に関する法律などの解説から構成した。自分は設計監理の業務を行うので、どうしても具体的な技術問題だけに着目する傾向になっていますが、授業の参加により石垣の保存修理の全体像が把握できた。

中でも特に気になる講義は、文化庁の中井調査官の「文化財保護制度と石垣修理の現状」である。例えば、設計によく標識、説明板、境界標、フェンスなどの工種を組みますが、実は文化財保護法によりこれらの施設は、史跡の管理に必要であると認められるから設計で検討し、補助金の申請を行うことができると分かった。逆にそれ以外の整備については、相応しくない可能性が高いと分かった。

そして、近年によくある地震などの自然災害により崩落した石垣の復旧は、基本的に災害前の状態まで復旧するのが原則である。その根拠について、講義から、文化財保護法に復旧は毀損している場合に、毀損以前に戻す行為であると既に規定されているからと分かった。

また、細かいですが境界標は、石造またはコンクリート造、13cm角の四角柱とし、指定種類と文部科学省の文字を彫り、地表から高さ30cm以上とするなど、細かく規定されたと分かった。史跡範囲を追加または変更に伴う整備である場合、注意が必要である。

自分の仕事に戻ると、コンサルタントという立場で設計監理を行うため、これからは、設計と監理の技術力は大前提ではありますが、国の施策を理解した上に、事業全体の計画性を把握し、地域の特性に合わせた総合的に提案する能力が必要になってきている。中井調査官の講座を受けたことにより、今まで勉強不足である法律レベルの視点から仕事の内容に対する認識を整理するきっかけになり、非常に良かったと思う。

貴重な機会を下さった事務局側と講師の方々に、本当に感謝いたします。

遠藤 嘉一(技能会員)

文化財石垣の保存・整備・活用、併せてその技能と知識の蓄積という観点から、大変有意義な講習会でした。しばらく前にNHKが全国の石垣のある城を持つ市町村にアンケートを行い、状況を問い合わせた結果、保存状態の把握すら覚束ない公共団体が少なからず見受けられ、まして整備や活用と言ったら、全く低い割合でした。私たち、保存・整備に係るものとしては驚きです。近隣にも、せっかくすばらしい石垣を持ちながら、みすみす雑草の中に埋もれている城は、いくつか思い浮かびます。恵まれた観光的価値の高い城は、手厚い様々な手当てが届きますが、人里離れた古城、支城、無名の城は、花見、もみじ狩りの頃を除いて見向きもされません。

願わくば、今回の講習内容を各市町村に送り、意識改革を促すことも良いかもしれません。私自身も日々城に登り、弛んだ詰石をたたき、水仕舞いを確認しながら、地元や観光の人たちに石垣案内人よろしく、話を聞いてもらっています。

何れ、我々のそう遠くない先祖様たちが積んだであろう石垣が正しく理解され、出来るだけ多くの人々の意識を高めて、維持・整備され、次の世代に受け継いで行かなくてはなりません。

最後に今回の企画に関われた全てのスタッフの皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

小野 雄大(技能会員)

文化財の石垣を後世に残す上で必要な心がまえを具体的に知ることができました。頭では、漠然と分かった気持ちでしたが、それに携わる先生たちの思いや葛藤を直に聞いて知ることができたのは大変有意義でした。

石垣の構造を土木工学的観点から見ると、思ったより解明されていないものなのだなというのも驚きでした。数値化していくのもこれからなのでしょう。その前に石積み技術が途絶えないようにする必要があるように思いました。

私事ですが、イギリスで石積みを学び、イギリスの石積み資格をとってきましたが、イギリス政府はあの手この手でその技術を守ろうとしています。若い人たちにも興味を持ってもらうための場が多く、より人々へ開かれた技術が受け継がれているので、もう少し広がりがあるようになっていけばいいのかなと、先生たちの話を聞いていて漠然と思いました。

今回は、初めての参加でしたが、座談会や懇親会が無く、あまり交流が持てなかったのが残念です。

杉山 佳奈(技術・研究会員)

今回の研修は、改めて石垣の基本を学ぶということで、私自身学生時代に考古学を専攻し、文化財としての石垣の価値についてはある程度理解していたが、実際の設計や施工方法というのは勉強であり、今回の研修でそういった面から見える石垣というのを学ぶことで、よい機会だったと思います。

特に、コンサル業界で働く身としては、昨今増加傾向にある石垣関連業務がどのような流れで設計→施工と動いているのかを勉強することができ、今後の業務に活かしたいと思う。また西形先生の質疑の際に話題となった「石垣の構築技法が正しく継承されて積み直した石垣であれば、石垣の価値も継承できているのではないか。」という点は、私も前々から気になっていた話だったため、「継承していると言える。」という結論は、大変参考になった。文化財行政担当の多くは、「オリジナルこそ価値がある」と思い、積み直しに消極的となりがちである。私自身も学生時代から考古学専攻してきたため、その気持ちは理解できるが、やはり400年近く経つ石垣を、今後も残していきたいと考えるのであれば、「正しい技法で正しく積み直す」という判断も必要であり、そこをうまくサポートするのがコンサルで働く人間の仕事だと思った。

昨年度から本協議会の会員となったが、石垣に携わる様々な分野の人の話を一度の研修で聞けることはとても有意義であった。今後も不定期で良いので石垣全般に関する研修を開いてもらえるとありがたいです。

(最新の石垣設計の情報や事例なども併せて研修で聞けると嬉しいです。)

指導者養成研修

【第1回(姫路)】

期 間 令和2年6月21日(土)
場 所 日本城郭研修センター
受講生 技術・研究会員1名

【第2回(大阪)】

期 間 令和2年7月11日(土)
場 所 (株)都市景観設計会議室
受講生 技術・研究会員2名

【第3回(東京)】

期 間 令和2年7月12日(日)
場 所 (株)文化財保存計画協会会議室
受講生 技能会員1名、技術・研究会員3名

【第4回(大津)】

期 間 令和2年7月25日(土)
場 所 滋賀県大津市
受講生 技能会員1名、技術・研究会員2名

【第5回(大津)】

期 間 令和2年9月19日(土)
場 所 滋賀県大津市
受講生 技能会員1名、技術・研究会員1名



第4回研修の様子

■新規加入会員紹介(令和2年7月11日役員会決議)

会員区分	氏 名	所 属
技能会員	小野 雄大	スワローテール ガーデン
〃	阪本 達也	(株)桂組
技術・研究会員	大川 裕司	(公財)文化財建造物保存技術協議会
〃	山上 雅弘	(公財)兵庫県まちづくり技術センター

■入会手続き

入会をご希望の方は、まず事務局にご連絡ください。当協議会の入会申込書を送付いたしますので、必要事項を記入のうえ、下記の事務局へご返送ください。

役員会にて会員資格審査後、入会通知書及び会費納入の振込用紙を送付します。年会費(4月～翌3月)をお振込いただき、事務局で正式に受理した日から本協議会会員として登録します。

■事務局からのお知らせ

②第1回役員会は、新型コロナウイルス感染症拡大のため書面審議で実施しました。
(基準日 令和2年6月22日)

事務局では「会員証明」の発行を行っています。業務などで必要な方は事務局まで発行をご請求下さい。

■文化財石垣保存技術協議会会員数

(令和2年4月1日現在)

技能会員	184名
技術・研究会員	121名
一般会員	40名
賛助会員	21法人
評議会員	10名
合 計	376名(法人含む)

発行年月日 令和2(2020)年10月10日

編集・発行 文化財石垣保存技術協議会

事務局住所 〒670-0012 姫路市本町68-258

日本城郭研究センター内

TEL 079-289-4877 FAX 079-289-4890